1970308

学位論文審査の要旨

学位申請者	横山　愛 人間発達科学専攻2019年度生	論文題目	一斉授業における対話の可能性 ―バフチンの対話論から「聞き手」に着目して―
審査委員	主　　査:　刑部　育子　教授 副　　査:　浜口　順子　教授 副　　査:　冨士原　紀絵　教授 審査委員:　小玉　亮子　教授 審査委員:　辻谷　真知子　助教	インターネット公表	学位論文の全文公表の可否　:　否 「否」の場合の理由 ☐ ア. 当該論文に立体形状による表現を含む ☐ イ. 著作権や個人情報に係る制約がある ☐ ウ. 出版刊行されている、もしくは予定されている ■ エ. 学術ジャーナルへ掲載されている、もしくは予定されている ☐ オ. 特許の申請がある、もしくは予定されている ※本学学位規則に基づく学位論文全文のインターネット公表について
学位名称	博　士　（社会科学）		
（英語名）	(Ph. D. in Education)		

学位論文審査・内容の要旨

本論文は、日本の小学校における一斉授業においてどのように対話が行われるのか、さらに一斉授業における対話の可能性について、聞き手の役割という側面から検討することを目的としている。

一斉授業では、1人の教師が学級に所属する多くの児童・生徒に対して発問を行い、児童・生徒が答えるという流れを中心に授業が進行される。一斉授業の授業形態に関しては様々な課題も指摘されており、特に、教師が授業進行を主導することで、子どもたちが学習の主体となった授業運営が困難であるという課題があり、一人ひとりの子どもの声を聴くことが難しいとされている。このような現状の中で、一斉授業においては教師に指名されて発言する話し手だけでなく、聞き手となる多くの子どもたちも授業に参加しているが、こうした聞き手の子どもたちの授業参加に関してはほとんど議論されていない。そこで、本研究ではバフチンの対話論を分析の視座とし、実際の小学校の授業実践を対象にし、聞き手の応答に着目した上で、どのように一斉授業において対話が行われているか、またその可能性について明らかにすることを目的として行われた。

結果、聞き手は受動的に「聞く」ことで一斉授業に参加しているのではなく、教師や話し手に対して応答しながら授業内のコミュニケーションに参加していることが示された。さらに、個々の聞き手の応答に着目すると、それぞれに様々な意見や疑問がその応答の背景にあり、一斉授業は多声的なコミュニケーションを行っている場であることが明らかになった。一方で、教師が子どもたちの発話を「聞く」際には、教師は授業計画との関連を視野に入れながら聞き手の子どもたちに応答し、聞き手の子どもたちも教師に対して応答することでコミュニケーションが進行していることが明らかになり、一斉授業においても、教師と子どもたち、個々の「声」の違いを見出しながら双方の応答に着目することで、新たな授業展開へと繋がり、授業計画とは異なる文脈において学びのきっかけを作り出す可能性があることが示された。さらに、教師と子どもたちの双方が聞き、応答的な関係を築くことによって、一方向的なコミュニケーションが行われると指摘されていた一斉授業において、対話が可能になることが明らかになった。

第一回審査会は6月20日に開催され、執筆者本人から論文の説明がなされた。これに対して、審査員からは一斉授業という枠組みの中で理論と実践の両面から対話の在り方を追求した独自性のある論文であるものの、一斉授業におけるバフチン解釈の新規性が十分に書かれていない、バフチンのポリフォニー論の理解の不十分さ、リサーチ・クエスチョンのわかりにくさ、対象となった授業実践についての必然性が十分に説明されていない、等の指摘がなされた。第二回審査会は9月13日に実施し、改訂された論文について審査を実施した。第二回審査会では、第一回審査会での指摘に対して丁寧に修正・加筆がなされていることが確認、評価された。ただし、文章の繰り返しが多い、タイトルの言葉の使い方、図のわかりにくさなど、細かな点がまだ修正される必要があり、確認を要することから、第三回審査会を開くこととなった。第三回審査会は11月22日におこなわれ、十分な修正対応がなされていることが確認され、12月13日に公開発表会並びに、最終試験を実することが認められた。12月13日の公開発表会では40分のプレゼンテーションが行われ、質疑応答が適切に実施された。その後の最終試験では、教育現場でアクティブ・ラーニングが叫ばれる昨今の中、あえて多数の子どもが聞き手になる「一斉授業」に焦点を当て聞き手となっている多くの子どもが積極的に授業に参加できる可能性があること、子ども同士の聞き合いも授業の中で起きていることなどを丁寧に具体的な実践の中から解明した点が高く評価され、本論文が、博士（社会科学）、Ph. D. in Educationの学位に相当すると判断され、合格とした。